中央大学政策文化総合研究所年報　第 26 号（2022）pp. 123−138
「地域社会の持続と歴史的資源の保存・活用」プロジェクト

1952 年 4 月～ 8 月における文部省史料館の活動
――「日誌」の紹介――

宮　間　純　一*

Activities of the Shiryo-kan During April-August 1952: Introduction of Office Diary

MIYAMA Junichi

This article introduces a diary created at the Shiryo-kan established under the Ministry of Education. This diary describes the daily work of the staff of the Shiryo-kan. After World War II, there was a movement to protect historical documents in the private sector. As a result, at the request of historians, the Shiryo-kan was established as a facility to protect and utilize historical documents. The outline of the history of the establishment, organization and functions of the Shiryo-kan has already been clarified. On the other hand, research on the practice of arrangement of historical documents, which was carried out at the Shiryo-kan has not been advanced. However, the practice has had a great influence on the arrangement of historical documents in postwar Japan. Therefore, it is an issue that must be pursued. In this article, following the previous article, I would like to introduce the office diary created in 1952 to help advance the research of the history of the Shiryo-kan.

キーワード：古文書，民間史料，史料館，史料館文書，史料館日誌
Key Words：Historical Documents, Private Archives, Shiryo-kan, Shiryo-kan Records, Office Diary of the Shiryo-kan

はじめに

本稿は，前稿「文部省史料館黎明期の古文書整理業務」[1] に続き，文部省史料館で作成された「日誌」を紹介するものである．

1951 年 5 月 30 日付で出された「史料館規程」（文部省令第 10 号）により，文部省大学

＊　中央大学政策文化総合研究所研究員，中央大学文学部教授
Research Fellow, The Institute of Policy and Cultural Studies, Chuo University; Professor, Faculty of Letters, Chuo University

学術局に「史料館」を置くことが定められた．この規程の第1条1項で「わが国の史料で主として近世のもの（以下「史料」という.）を収集し，保存し，及び利用に供し，併せて史料についての理解及び普及を図り，もつてわが国における史学の研究に資する」ことが史料館の目的とされた[2]．これにより，国が1949年に三井文庫から買い上げていた東京都品川区豊町一丁目1138番地に史料館が正式に開館することになった．

史料館には，館長（「文部事務官又は文部教官」）をはじめとする職員のほか，評議会（「史料館の毎年の事業計画その他の重要事項について審議し，館長に助言する」），専門員会（「史料の収集，保存，利用等に関する専門的事項を調査審議し，館長に助言する」）を置くこととされた．専任の館長は置かれず，文部省学術局学術課長岡野澄が兼務している．岡野は，1952年の「日誌」をみる範囲では史料館には常駐しておらず，必要が生じた場合にのみ史料館に出向いていた．評議員には，史料館設立運動に深くかかわった慶應義塾大学経済学部教授野村兼太郎ほか12名，専門員には東京大学文学部助教授宝月圭吾ほか9名が任命された[3]．

史料館は，敗戦後の史料保存運動を受けて設立された民間史料（特に近世文書）を対象とした日本で最初の本格的なアーカイブズ機関である．その後の日本における古文書の整理・保存・公開のあり方に，理論面でも実践面でも多大な影響を及ぼした．そのため，歴史資料に関する専門職やアーカイブズ学にかかわる研究者たちは，史料保存運動から史料館設立までの経緯や史料館の果たした役割に高い関心をもち，その概略を明らかにしてきた[4]．

しかしながら，史料館の実践を深堀りした研究はいまだ十分とはいえない．史料館の理念や機能・制度とともに，古文書の収集・保存や目録の作成といった活動の実態を明らかにしなければ，史料館のアーカイブズ史上の意義を真に理解したことにはならない．そこで，本稿では前稿に続き，史料館の実務を知ることができる事務日誌のうち1952年度の前半期に作成された分を翻刻・紹介し，今後の研究進展の一助としたい．

1 解　　題

本稿で紹介するのは，国文学研究資料館が所蔵・公開している「史料館文書」のうち1952年の4月から8月中旬にかけて作成された「日誌」[5]（以下「本日誌」という.）である．文部省史料館は，1972年に「国文学研究資料館史料館」に改組され，2004年には「大学共同利用機関人間文化研究機構国文学研究資料館」となった．国文学研究資料館は，史料館の機能を現在に引き継いでいる研究機関であり，組織の改正にともなって史料館が作成・取得した行政文書（「史料館文書」）も継承してきた．つまり，事務日誌は，文部省

の一部局であった史料館が作成・取得した行政文書ということになる[6]．

日によって日誌の記述には濃淡があるが，日曜・祝祭日を除き，史料館の館員による記述がほぼ毎日みられる．日誌は，史料館が正式に設置されるより前の 1949 年に始まる，それ以降，館員によって継続して作成されていたと思われるが欠本もある．前稿で紹介した 1949 年 9 月 27 日から翌 50 年 4 月 5 日の分がもっとも古く，その後，本日誌が起筆された 1952 年 4 月 1 日までの約 1 年間の分は「史料館文書」の目録上では確認できない．1952 年度の日誌は，2 冊に分かれているが，本日誌はその 1 冊目である[7]．2 冊目は紙幅の都合により，機会を改めて紹介したい．

本日誌は，わら半紙に月日・曜日・天候・来訪者・欠席者・摘要の欄が謄写版（ガリ版）であらかじめ印字されており，その日の業務・出来事に応じて必要な欄にのみ手書き（インク）で担当者が情報を記載している．記録者の名前は明記されていないが，複数名の筆跡がみられることから担当者が固定されていたわけではなく，出勤した職員が交代で記入していたと推定される．なお，1949 年度の日誌は文部省の罫紙に縦書きで記入されているが，本日誌は横書きで作成されている．

本日誌の記述をみると当時の史料館の業務は，おおよそ①古文書の出張調査，②閲覧・貸し出し・レファレンスなどの窓口業務，③史料目録の編集・刊行，④講習会の準備，⑤建物のメンテナンスなどの庶務，によって構成されている．『史料館の歩み四十年』によれば，これらのうち古文書の調査や整理といった専門的な仕事は，臨時筆生など 20 代の若手の非常勤職員に負うところが大きかった[8]．本日誌の記述は，そのことを裏付けている．

記事の中でも特に注目されるのが，史料目録の編集・刊行と「講習会」である．

史料館は，開館以来，収蔵史料の目録を作成し続けてきた．その第 1 集が，1952 年 3 月付けで刊行された．本日誌からは，この第 1 集の編集過程が読み取れる．1951 年度内に刊行の目途は立っていたようだが，1952 年度の初め頃にはまだ校正作業が続いている．本日誌が書き始められた段階で完成に近づいてはいたが，史料館員が完成品を手に取ったのは 5 月中旬のことであった（5 月 15 日条）．本日誌には，その間に行われた校正・原本照合および印刷業者（杉田屋印刷株式会社）との打合せ，納品後の発送に関する出来事が記されている（4 月 7 日条ほか）．

目録第 1 集の「刊行のことば」によれば，史料館が開館したとはいえ，古文書の整理や目録の整備が追いついておらず，史料の一般公開にはいたっていなかった．閲覧者が，大学に所属する研究者や，研究者に紹介された学生などに限られていたことは，本日誌の「来訪者」欄をみればわかる．そうした中でも，「学界の要望に応え，とりあえず所蔵史料の目録を編集・刊行することとしここにその第一集を公刊した」と，歴史学界の要望に応

じて不十分ながらも史料目録の刊行を始めたと述べられている．収録されたのは，「遠州嶋村山田家文書目録」と「遠州桑地村加茂家文書目録」である[9]．

この目録の凡例では，「史料は利用上の便宜を考慮して，内容項目別に分類排列した．その項目と順位は各文書の内容・性質・数量等によつて適当と思われる項目並に細目分類を試み」たと示されており，「支配」・「土地」・「租税」などの内容に応じた項目に文書が分類された．いわゆる主題別分類が採用されている．アイテムごとには，必要最低限の情報（表題・作成者・作成年・形態・数量・整理番号）が記述され，解題も二つの文書群で合計5頁と非常に簡素である．凡例の最後に「なお本目録は，とりあえず第一集の刊行を急いだ諸般の事情から，上述のような多くの省略とまた内容分類の項目の立て方排列など，更に検討の余地を残しているものもあるが，これ等は続刊予定の第二集以下において逐次改正を期する次第である」と注記があるように，時間的な制約から十分納得がいく目録は作れなかったことがわかる．一方で，第1集の刊行段階で目録の作成方法に関して史料館の若い職員が技術的な面での検討を始めていることに興味が引かれる．のちに，史料館あるいは史料館の職員や出身者が，民間史料の目録の編成記述をめぐる議論をリードしていくことになる．第1集の史料目録を作成した実践の場から，上記のような問題意識が萌芽していたことは見逃せない事実である．この時，実務にあたったのは，その後史料館の教授となる原島陽一のほか，ヨーロッパの「アーカイブズ学」を学んで1980年代に日本に紹介した安澤秀一などであったことが本日誌からは確認される[10]．

「講習会」は，現在国文学研究資料館が主催しているアーカイブズ・カレッジ（長期コース）につながる「近世史料取扱講習会」のことである[11]．史料館は，設立当初から古文書を取り扱う専門家の養成を「講習会」という形で実現することを構想していた．本日誌によれば，4月から7月にかけて文部省本省から事務官の槐礼一郎らが打ち合わせのためにたびたび史料館を訪問している（4月21日条ほか）．7月上旬には，講師を集めた会議も開催されており，念入りに準備された様子がうかがえる（7月8日条）．講師に選ばれたのは，首都圏の大学教員や研究所に勤める研究者（主に近世史を専門とする歴史家）や史料館の職員・調査員たちであった．近世史料取扱講習会は，9月8日から20日にかけて実施されたが，その模様は1952年度後半の事務日誌に登場する．そのため，本稿では詳しくふれず，2冊目の日誌を紹介する際に改めて言及することにしたい．

1952年は開館から間もない頃だが，史料館の活動の柱となる機能が出揃った時期であることが本日誌からは読み取れる．以後の活動基盤を作ったこの時期の実態を把握することは，日本のアーカイブズ史を理解する上で重要だといえよう．

2　翻　　刻

凡　　例

⑴　1951年4月1日から同年8月13日にかけて文部省史料館で作成された「日誌」を翻刻する．

⑵　翻刻にあたって旧字・異体字は常用漢字に改めた．ただし，人名や固有名詞の一部は原文の記載通りにした．なお，同一の人物・対象に対して旧字・異体字が混在している場合もあるが原文のママとした．

⑶　句読点・中黒は，読みやすさを考慮して一部改変・加筆した箇所がある．

⑷　特に重要な意味がないと考えられる場合，改行・空白は詰めた．

⑸　［　］・ルビは，翻刻者による注記である．

⑹　日誌は，月日・曜日・天候・来訪者・欠席者・摘要の欄が印字された横書きの用紙に記載されているが，日によって記載がない項目も多い．欄があっても記載がない項目は翻刻には反映していない．

⑺　本紙に貼付・挿入されている葉書・名刺などについて，翻刻を一部省略した箇所がある．省略した部分にはそのことがわかるように注記した．

⑻　■（塗抹）・［　（抹消）　］は，塗りつぶされて判読できない文字を表している．字数がわかる場合は字数分■を配し，わからない場合は［　（抹消）　］とした．また，抹消されている文字が判読できた場合は，当該文字に「(抹消)」とルビを付した．

⑼　本文中に付した脚注は，すべて翻刻者による．人名の注記は，史料館の関係者のうち判明する範囲で示した[12]．

「日誌（表紙）　史料館」

4月1日火曜　欠席者，鶴岡[13]・谷藤[14]本日ゟ図書整理ノタメ文部省へ．摘要安澤[15]・吉永[16]両君千葉調査ゟ帰京．午后二時ゟ本省ニテ臨時筆生面接試験．大石[17]氏帰郷中．

4月2日水曜　摘要異状ナシ．

4月3日木曜　来訪者，本省槐[18]・松平両氏．竹内利美・藤森両氏．摘要本省ゟ槐氏外一名購入図書整理ノタメ書籍受取ニクル．午后竹内・藤森両氏写真撮影ノタメ来館．民族学協会ゟ貸出中ノ錦絵返却．大石君本日帰京（異状ナキ由）．高崎大学ノ件ニツキ詳細調査依頼．所[19]・山口氏[20]，■（塗抹）一誠堂[21]下見．

4月4日金曜　摘要山口氏クラス会へ出席ノタメ留守．中井氏[22]三井．原島君[23]本省へ写真機渡シ．臨時筆生ノ3月分俸給受取ツテクル．

4月5日（天候）晴　摘要松澤[24]・荒井両嬢俸給渡シ．渋沢龍門社[25]依頼ニヨリ日刊工業ノ所氏来館打合ヲナス．

4月6日日曜（天候）晴　摘要所・原島・安澤三氏東京都下南多摩郡多摩村連光寺富澤政鑑氏（草分名主）宅へ調査出張[26]．

4月7日月曜（天候）晴　摘要大石氏3日附ニテ発令ノ由．木曜日送別会開催予定．
◎（朱筆）26年度予算．史料目録再校クル．高師先生来館安澤君面接．
「（貼付文書）四月分週報　原島．七日（月）昨年度分出版目録再校々正に当り，万全を期すため，カード・原本と照合することにす．このため再校■（塗抹）十七日に及ぶ．十日（木）新規購入の写真機接写装置を本省より持来る．十六日（水）兼て本省にて整（塗抹）理続行中なりし新規購入参考書の整理一応終了し，史料館に搬入す．追而台帳記載済を俟って納蔵すべし．鶴岡本日より史料館へ出勤．十八日（金）出版目録（山田文書分）再校を終へ再び真田文書[27]整理に入る．二十四日（木）新見吉治殿来館．二十五日（金）太田文書[28]貸出に付史料編纂所杉山博殿来館．」

4月8日火曜　摘要岩生成一氏紹介東大生卒論ノタメ来館．山口氏午后ゟ休暇．史料目録ノ再校ニツキ，原物トノ照合開始．

4月9日水曜（天候）雨　摘要異状ナシ．一同再校照合．山口氏帰郷．

4月10日木曜（天候）晴　摘要大石君送別会午后行フ．山口氏代休．本省ゟ鶴岡・谷藤氏来館参加．新規購入ノ写真器附属品（複写器，大型及携たい用），ライカ接写装置｛台，滑走盤，ヘリコイド，リング，拡大鏡．渋沢青渕（淵）龍門社依頼ノ出品日刊工業へ渡ス．

4月11日金曜（天候）雨　来訪者，槐氏．摘要再校原物照合．安澤君今朝長野県北佐久郡五郎兵衛新田村調査（柳沢家）[29]．吉永君千葉県下へ調査．文部省斉藤氏写真器ノ件ニツキ問合セアリシモ，安沢君持参ノ為貸出出来ヌ故断ル．

4月12日土曜　摘要再校，原物調査．山口氏三井．

4月14日月曜（天候）雨　欠席者，所．摘要再校ト現物トノ照合．山口氏午后ゟ日（塗抹）野西中御門家へ．同家所蔵文書調査ノタメ．所氏同行．

4月15日火曜（天候）雨　摘要吉永氏千葉調査ゟ帰ル．史料貸出不許可ナリ．一同再校照合．午后槐氏出張．俸給（筆生）ノ件ニツキ打合．自然園入場券職員へ下附サル．26年度末購入図書整理中（文部省）ノ処完了ニツキ，明日荷物クル由．龍門社借用証ニツキ槐氏問合セシモ，本省ニ連絡セズ．コチラニ置クヿトスル．

4月16日　摘要本省へ出張中ノ鶴岡・谷藤両氏本日ゟ復帰ス．本省ゟ書籍来館ス．

4月17日木曜（天候）晴・強風　摘要校正完了シ，午后速達ヲ出ス．遠藤[30]午后，渋沢敬三宅へ．

4 月 18 日金曜（天候）雨午后霄　摘要私鉄スト．再校完了ニツキ，一件書類納庫．

4 月 19 日土曜（天候）晴　摘要安澤君帰京出勤シ，カメラ本省へ貸出ス（浅井氏[31]持参）．真田文書整理．

4 月 21 日月曜（天候）雨　来訪者，槐氏．摘要避雷針ノ引込線（エントツ）盗マル．槐氏来館．書籍礼式，■（塗抹）寄贈依頼状ノ件ニツキ（抹消）及．講習会ノ件ニツキ相談．本日ゟ鶴岡氏本省図書購入台帖ゟカードへの転記．山口氏土曜日午后義父病気ノタメ帰郷中ノ処午后ゟ帰京出勤．

4 月 22・23 日火・水曜　摘要異状ナシ．

4 月 24 日木曜　来訪者，新見吉次（ママ）及松阪市史編纂所長新美忠之．欠席者，■（塗抹）．摘要地方史協議会[32]主催埼玉県大会へ貸出ノ件ニツキ，杉山氏ゟ連絡アリ．真田整理例ノ如シ．

4 月 25 日金曜（天候）雨　来訪者，杉山氏．欠席者，吉永．摘要杉山氏（史料編纂所）埼玉大会ノ件ニツキ史料貸出証（野村兼太郎[33]氏捺印）モツテクル．山口氏学術課服部氏連絡ノ上了解ヲ得．槐氏俸給ヲモツテクル．荏原署巡査盗難銅線ニツキ来館．倉庫工事人世田谷区代田１－３浅野製作所（浅野豊吉）．

4 月 26 日土曜（天候）晴　欠席者，浅井．

4 月 28 日月曜（天候）晴　来訪者，槐・髙村象平・豊田武氏[34]・東大学生．摘要Ⅰ．槐氏講習会ノ件ニツキ来館．豊田武氏東横百貨店宣伝部長（小西氏）ノ申込ニヨリ７月初旬ゟ商業文化史展ニツキ相談．出品ノ件ニツキ快諾ス．真田文書整理．旧参謀本部地図ノ内四国篇完成．Ⅱ．庶民史料手伝仕事始．

4 月 30 日水曜（天候）晴　来訪者，槐・松平・本省守衛長・島根大学助教授庄司久孝・立命館大学樋口節夫外３名・医博生山昌敏・松阪市史編纂所長新美忠之．摘要史料館目録三校クル．国旗旗竿来ル．島根大庄司氏，雲州松平史料[35]撮影．本省守衛長，構内消防施設等視察．立命館大学樋口氏等一行見学．

5 月 1 日木曜（天候）晴　来訪者，槐・中田教授[36]・大石君．摘要槐氏講習会ノ件．日刊工業貸出品返却（フタノ金具ヲ欠ク）．埼玉大学（地方史協ギ会）出品依頼書，槐氏渡．史料館目録三校開始．杉田屋印刷所校正ノ件ニツキ打合ニクル．

5 月 2 日金曜（天候）晴　来訪者，東洋紡東京支店長斉藤・直江氏来館．大石君．摘要渋澤敬三氏紹介東洋紡取締役来館（堺紡績ノ件）．史料館目録三校午后速達ニテ送ル．
［貼付：東洋紡績株式会社東京支店直江道保・齋藤香の名刺各１枚，本文略］

5 月 6 日火曜（天候）晴　来訪者，稲森慎二（K.O（慶應）大学院学生）．摘要所氏出席．Ⅰ.消防署ゟの使の件．先方へ書類を回す由．（三井本社ゟ）．Ⅱ.本省ゟ史料館目録ノ件につき電話あり（中井氏）（用度）．Ⅲ.K.O. 稲森氏高村先生の紹介状をもつて来館．毎週一

回来館の予定．Ⅳ.三校（目録）校了速達を出す．出張校は木曜日．Ⅴ.阿弥陀三尊．Ⅵ.直津市へ所氏葉書ヲ出ス（史料問合）．

［貼付：慶應義塾大学教授経済学部勤務高村象平の名刺，本文略］

5月7日水曜（天候）晴後曇　来訪者，槐氏．摘要槐氏文部省よりカメラ返却．及びフラッシュガン一式搬入．

5月8日木曜（天候）晴　来訪者，東大女学生．摘要原島・松沢君杉田屋印刷屋へ出張校正．山出（塗抹）口氏午后杉田屋へ．参謀本部地図近畿之部出来ル．

5月9日金曜（天候）晴　来訪者，槐事務官．摘要東横展ニツキ豊田先生へ手紙ヲ出ス．槐氏俸給もってくる．

5月10日土曜（天候）曇　摘要異状ナシ．

5月11日日曜（天候）晴　来訪者，石井良助氏（小杉温邨氏徴古雑抄閲覧ノタメ）．摘要山口氏本日ヨリ九州地方（熊本，長崎）出張．20帰京ノ予定．

「日誌（中扉）　史料館」

5月12日月曜（天候）晴　来訪者，石井良助（小杉温邨氏徴古雑抄閲覧ノタメ）．摘要出張山口（11―17）．倉庫修理人主任来館．庶民資料ノ直江津ノ一件．売却済ノ連絡アル（町役場）．

5月13日火曜（天候）晴　来訪者，慶応学生・稲森氏．摘要1／5万地図索引中国完了．
「所氏（欄外記載）tel861021林制史」

5月14日水曜（天候）晴　来訪者，東大学生（真田家文書閲覧の為）．摘要4時原島・吉永・安澤3名，サラリーの件に付面談の為，文部省へ出向．倉庫修理人来館．

5月15日木曜（天候）晴　摘要5万分一地図索引完了（県郡別）．異状ナシ．◎史料館所蔵史料目録出来上り[37]．1部届く．

5月16日金曜（天候）晴　来訪者，東横関宣伝課長．摘要異状ナシ．東横百貨店関課長展覧会（6月中旬）ノ件ニツキ来館．

5月17日土曜（天候）晴　来訪者，慶応宇治氏・東大学生．摘要豊田氏[38]ゟ来翰（時代的背景をつけたき由）．兒玉[39]風邪ノ由．埼玉県入間郡ゟ史料見学ノ件（19，20）（消抹）．

5月19日月曜（天候）曇むし暑　摘要所氏埼玉県出張（入間郡勝呂村林織喜）．明治刑事博物館ゟ第1号目録贈らる．山口栄蔵氏ゟ来翰アリ．

［挿入：「史料館みなさま」宛熊本市滞在山口栄蔵葉書，本文略］

［挿入：「史料館内遠藤武様」宛大牟田滞在山口栄蔵葉書，本文略］

5月20日火曜（天候）曇むしあつし後雨　来訪者・欠席者，異状ナシ．摘要山口氏ゟ朝鮮飴オクラシ．一同珍味ヲアチワフ．

［貼付：熊本県船場町合名会社山城屋本店から朝鮮飴の送付状，本文略］

5 月 21 日水曜（天候）晴　来訪者・欠席者・摘要異状なし.

5 月 22 日木曜　来訪者，鈴木六郎（三重県主事）・教大（小草田教授他 1 名）・東大学生. 摘要東横関氏ゟ電話にて 9 月～ 10 月行ひたき由．槐氏帰京電話あり．豊田氏へ連絡ノ手紙ヲ出ス.

「御葉書（貼付葉書）拝見．古仁所君沖縄に行かれます由，その前に会つて展覧会の事を是非打合せたいと思いますが，小生の帰京は五月廿九日の晩から六月十二日迄（中，六七日仙台）になります．古仁所君はいつたたれるのでしょうか．月末というのは，五月ですか．六月ですか．五月とすれば或は間に合わぬと思います．もし間に合わねば，古仁所君とよく打合せて下さい．以上．五月十九日」

［貼付：三重県事務吏員主事鈴木六郎の名刺，本文略］

5 月 23 日金曜（天候）小雨后霄　来訪者，槐事務館（ママ）．摘要異状ナシ．下関・熊本ノ珍菓ヲ味フ（槐氏）．逓信博へ樋畑ノ件ニツキ連絡.

［貼付：「史料館内諸兄」宛天草下田温泉滞在山口栄蔵葉書，本文略］

［貼付：「文部省史料館諸嬢」宛天草下田温泉滞在山口栄蔵葉書，本文略］

［貼付：下関市長寿堂「亀の甲煎餅之由来」の広告，本文略］

［貼付：東洋紡績株式会社東京支店直江道保の名刺，本文略］

5 月 24 日土曜（天候）晴　欠席者，荒井④ 10 時出勤．摘要異状ナシ.

5 月 26 日月曜（天候）晴　来訪者，東大学（生脱ヵ）・教育大生・槐氏．摘要Ⅰ．昨日所・浅井・谷藤・原島・安沢等五名史料調査ノタメ聖蹟桜ヶ丘へ．Ⅱ．山口氏来帰宅．Ⅲ．槐事ム官（俸給，講習会ノ件）（目録発送ノ件）．Ⅳ．原島・安沢引続出張中.

5 月 27 日火曜（天候）曇小雨　来訪者，教育大生．欠席者　安沢・原島両君聖蹟桜丘（ママ）調査出張．摘要山口氏帰京．午后珍味ヲ味フ．異状ナシ.

［貼付：京都市豆腐本舗「京名物登録商標小町五色豆」の広告，本文略］

［貼付：菊屋本店「軽羹の由来記」，本文略］

5 月 28 日水曜（天候）雨後曇　来訪者，朝日新聞記者・槐氏．摘要Ⅰ．安澤，聖蹟桜ヶ丘へ史料調査．Ⅱ．朝日新聞社より，名美術品海外流出の現状に鑑み，学術史料保存状況を探訪に来館．（朝日新聞調査研究室研究員安田満）.

5 月 29 日木曜（天候）晴　来訪者，槐氏．摘要 1．所・浅井・谷藤・児玉・吉永五氏応援ノタメ聖蹟桜丘（ママ）へ出張（安沢・原島引続出張）．2．講習会[40] ノ件ニツキ槐氏来館．（大体 2 周期（間ヵ）ノ予定）．3．明日ゟ松澤・兒玉二氏文部省へ応援．（一週間ノ予定）．4．インク青赤二瓶受領．予定 9 ～ 10 東横展（商業文化史），史料展示会（第三回），11 初旬講習会

5月30日金曜（天候）雨後霄　摘要 1. 出張者＝兒玉・松澤（以上文部省），谷藤（桜ヶ丘）．2. 埼玉県入間郡林織喜宅へ目録返却費．3. 異状ナシ．

［貼付：「林織喜」宛「史料館」差出「特殊郵便物受領証」，本文略］

5月31日土曜（天候）晴　摘要 1. 調査‥‥原島・安沢・谷藤（桜ヶ丘）．2. 文部省‥‥松澤・荒井．3. 筆生出勤表〆切ル．臨時筆生23日．荒井‥‥17日以降．

［挿入：筆生出勤日数メモ，本文略］

6月2日月曜（天候）雨　来訪者，教大・慶応両学生．欠席者，谷藤（午后）・安澤（午后）・遠藤．摘要 1. 出張‥‥松沢・兒玉（本日ヲモツテ完了）．2. 所・山口 両(塗抹) 午后ゟ藤井甚太郎ト中御門家へ．3. 異状ナシ．

6月3日火曜（天候）曇後晴　来訪者，稲森氏．欠席者，浅井・谷藤・安澤．摘要 荒井・松澤両女史引続き本省へ出張．

6月4日水曜（天候）雨後曇　来訪者，槐氏・大石氏．欠席者．摘要 槐氏本省より寄贈図書（大日本史料外5冊）．ワラ半紙，砥石を搬入并参考図書台帳，基本カード本省へ持参．荒井・松澤両女史本日より当館へ復帰．製紙博物館より6日来館の旨電話にて連絡あり．

6月5日木曜（天候）晴　来訪者，槐事務 ■(塗抹) 官．摘要 1. 講習会打合会．2. 宇野君夫妻挨拶．

6月6日金曜　来訪者，東大学生（午前中）．製紙記念館成田・丸子両氏．摘要 1. 地方史研究会ゟ貸出中ノ資料返却（吉永君持参）．2. 王子製紙記念館ゟ館長他一名来館．3. 異状ナシ．

［貼付：財団法人製紙記念館嘱託丸子亘の名刺，本文略］

［貼付：財団法人製紙記念館館長成田潔英の名刺，本文略］

6月7日土曜（天候）晴　来訪者，金澤氏・槐氏．欠席者，荒井．摘要 1. 槐事務官ゟ鎌・休暇用紙・筆生俸給（5月分）受領．2. 異状ナシ．3. 本省ゟ寄 ■(塗抹) 贈図書（江戸時代之音楽他一冊）二冊．

6月9日月曜（天候）雨　来訪者，学生2名．製紙記念館員一名．摘要 1. 荒井氏ニ俸給渡シ．2. 異状ナシ．

6月10日火曜（天候）雨　来訪者，慶応学生．宇野君 ■(塗抹) のおくさん（貸出）．摘要 1. 槐氏俸給もってくる．2. 史料目録発送の件．3. 5月16日ゟ分類はじめし市町村名索引のうち東北地方之部完了．

6月11日水曜（天候）曇時々晴　来訪者，堀川喜久司氏．摘要 1. 史料編纂所より当館への寄贈図書，当方より受取りに出向かれ度き由電話にて連絡あり．

［貼付：北魚沼郡湯之谷村立第二湯之谷中学校堀川喜久司の名刺，本文略］

6月12日木曜（天候）晴　来訪者，中野効四郎（岐阜大教授）．石島氏（左同）．摘要Ⅰ．谷藤・鶴岡・兒玉本省目録発送手伝．Ⅱ．早稲田大学図書館月報寄贈（№9）．Ⅲ．千葉県印旛郡久住村ゟ連絡あり．（25日）．

6月13日金曜（天候）晴　来訪者，金澤氏（東大）．摘要異状ナシ．槐氏ゟ電話アリ．16日月曜岡野課長来館（講習会ノ件）

6月14日土曜（天候）曇　摘要異状ナシ．

6月16日月曜（天候）雨　来訪者，槐事務官・伊畑氏．摘要1．史料館蔵史料目録（去る12日発送）受領書13通クル．2．槐事務官ニ講習会ノ件（九月上旬開催）ニツキ来館．課長来館ノ予定ノ処中止．

「今月ゟ（挿入文書）毎月請求の冂．新聞も亦同じ．27／6／16品川区東戸越1の964実誠堂書店森徳治郎．1．思想6月号100．—，2．中央公論7月号140．—，3．新潮7月号130．—，total370．—．8／13日（ママ）入金済，本文略］

6月17日火曜（天候）晴　来訪者，慶應学生．摘要異状ナシ．

6月18日水曜（天候）曇時々雨　来訪者，槐事務官．摘要Ⅰ．槐氏本省より史料目録第1集を搬入．Ⅱ．尚史料編纂（所脱カ）ゟ寄贈図書5冊．（大日本古文書）

6月19日木曜（天候）曇　来訪者，岡野課長[41]・斎藤・槐氏・金澤氏・中田氏．摘要1．本省ゟ課長・斎藤・槐三氏講習会ノ件ニツキ来館（9月7日ゟ2週間）．尚水産史料館建設ニ関シテ許すアリシト（10ヶ年借■（塗抹）地ノ件）．2．所氏庶民史料ノ件ニツキKO野村氏へ．

6月20日金曜（天候）梅雨　摘要槐氏ゟ購入図書目録ニツキ問合セアリ（未着）．

6月21日土曜（天候）曇　摘要Ⅰ．逓信博物館ゟ電話ニテ借用品ノ件今回ハ問合之由．Ⅱ．異状ナシ．

6月23日月曜（天候）台風ダイナ九州地方ニクル由．雨時々霄．　来訪者，金澤氏．

摘要1．槐氏ゟ問合中ニ図書カード自動車中ニアリシ由電話アリ（山口）．2．大石君ニ目録弐部渡シ（吉永氏）．

6月24日火曜　摘要1.本省ニテ専門委員会（講習会）9H～12H．2．俸給及筆生手当支給サル（但除安沢君，1年未満ノタメ）．3.次回専門委員会（但：講習会講師ノNenber（Memberカ））ハ7月4日金午后ノ予定．4．筆生ノ共済組合ノ件ニツキ時給36．06以上ノモノ加入サルヽ由．

6月25日水曜（天候）曇時々小雨　来訪者，金澤氏．摘要異状なし．

6月26日木曜（天候）霄　来訪者，森克巳氏．朝日新聞関口親氏．摘要1．史学雑誌61編6号　80.—購入．2．聖心女子大学論叢第1集寄贈．

［貼付：朝日新聞調査研究室関口親の名刺，本文略］

6月27日金曜（天候）晴　摘要異状ナシ.

6月28日土曜（天候）晴　摘要異状ナシ.

6月30日月曜（天候）曇后雨　来訪者，金沢静枝・農林省水産庁（角谷勇一技官，清水建設設計課長他3氏）．摘要1．水産庁ゟ史料館設立ニ関し敷地見聞．2．信州大学ゟ鈴木助教授外2名来館（真田史料）．3．槐事務官講習会ノ件ニツキ来館．（未交渉講師，豊田．■（塗抹）淀村文書）．4．（記載なし）講習会打合会‥‥7月8日（火曜日）

「（挿入文書）六月三十日，水産史料館敷地検分ニツキ，農林技官角谷勇一，清水建設設計課長仁藤信次，（抹消）氏外三氏来館.」

7月1日火曜（天候）雨後霄　来訪者，長野大鈴木氏．摘要異状ナシ.

7月2日水曜（天候）小雨後霄　来訪者，鈴木長（野）の大．欠席者，荒井．摘要史料編纂所員金井円，同史料学生中島素郎来館．史料閲覧（卒論）.

7月3日木曜（天候）雨後霄　来訪者，鈴木長の大・槐事ム官．欠席者，安沢・松沢.

摘要1．午前中講習会の件につき打合．2．槐事務官展覧（抹消）会講習会用文房具及用具注文依頼．○A裏打用具，①刷毛3，②糊刷毛10本，③裏打台（3×4×0．8），④用紙1〆．○B文房具，①錐　製本用大小2本･4枚通3本，②とじ針5本，③製本麻糸3ケ，④ホチキス2台，⑤定規（高1寸）1本，⑥鋏小3丁・大2丁，⑦物差5本．史料目録発送先，①大学図書館・同研究室，②図書館（市立），③個人‥‥官庁，開国百年，沼田氏.

7月4日金曜（天候）晴　来訪者，金沢静枝・長野大鈴木氏他2名・文部省写真屋．欠席者，安沢．摘要Ⅰ.長野大鈴木氏真田文書閲覧中ノ処本日之ヲ完了シ挨拶シテ帰ル．Ⅱ.文部省写真部講習会ノ写真ノ件ニツキ来館ス.

7月5日土曜（天候）曇　摘要三井家荷物着（新町）.

7月7日月曜（天候）雨　来訪者，槐・金沢．摘要1．筆生俸給受納のため松沢氏文部省へ．後之ヲ分配す．2．槐氏講習会の件につき相談．3.筆生中，原島・安澤・吉永氏3名は共済組合へ加入さる.

7月8日火曜（天候）晴　摘要1.講習会打合会（9.30本省ニテ）山口，中井，所，遠藤，浅井出席．文部省岡野，斉藤，服部．講師野村，宝月[42]，石井[43]，和歌森[44]，桜田，宇野，古島[45]，豊田出席．9．30分開会．9月8日ゟ2週間の件異論なく通過．各講師各部門の件につき打合をなす.

7月9日水曜（天候）晴後雨　欠席者，安沢・兒玉．摘要水産庁史料館ノ件ニツキ農林省ゟ事務（ママ）館来（ママ）観.

7月10日木曜（天候）雨　来訪者，槐事（抹消）ム務官．欠席者，安沢・荒井．摘要1.槐事務官来訪．来年度予算につき打合をなす.

7月(抹消)10 11日金曜（天候）曇後雨　摘要異状ナシ．先ニ問合中ノ島根県簸川郡伊波野村岡義重氏ゟ来翰あり．

7月12日土曜（天候）小雨後霄　来訪者，金沢氏．欠席者，安沢．摘要異状ナシ．（今朝ノ新聞ニ安沢宅火焔ビン投入サレシ記事アリ）．

7月14日月曜（天候）梅雨　摘要長野大（鈴木寿氏）礼状アリ．午後松澤，荒井チブス予防注射のため本省行．

7月15日火曜（天候）晴　来訪者，児玉幸多氏[46]．摘要Ⅰ．遠藤・谷藤・吉永氏チブス予防注射のため本省行．Ⅱ．学習院大学児玉教授講習会用テキスト打合せに来館．

7月16日水曜（天候）晴　摘要京都三井家より荷物（15箇）到着．

7月17日木曜（天候）晴　来訪者，交通博物館員．摘要1．保科喜代次氏鉄道80年記念展ニツキ出品依頼ニ来館．2．群馬県甘楽郡富岡町公民館内町史編纂室加藤安雄氏へ史料館収蔵目録1部贈ル．3．茶話会后，夏休ノ件ニツキ相談．4．日本地名索引（2）関東篇完成．

(挿入文書)「8月2―14日　㊫」

［貼付：交通博物館保科喜代次の名刺，本文略］

7月18日金曜（天候）雨後霄　来訪者，槐事務官．摘要1.槐氏講習会ノ件ニツキ来館．経師屋，史料館員ノ定数等々．2．早稲田大学ゟ図書館月報№10寄贈さる．

7月19日土曜（天候）小雨霄　摘要異状ナシ．

(貼付文書)「27／7品川区東戸越1の964実誠堂書店森徳治郎．1．思想，2．中央公論，3．新潮，4．史学雑誌．◎新聞　1．読売，2．朝日，3．毎日，4．東京．」

7月21日月曜（天候）晴　来訪者，新見氏・槐氏．欠席者，兒玉休．摘要1.所・浅井両氏熊谷へ出張．2.織茂氏ゟ来簡アリ．3．槐氏本省ゟカメラ持来（返却）．

7月22日火曜　来訪者，中田氏・金澤氏．欠席者，兒玉休．摘要1．中井・原島氏千葉県下出張．2．上野図書館ゟ図書目録恵贈さる（2部）．3．浅井・所氏出張ヨリ帰ル．4．浅井氏に7月分新聞，雑誌（印渡し），共済組合の証明書渡す．5．広島県史蹟調査員村上正名氏福山市史編纂ノ件ニツキ来館．

7月23日水曜（天候）晴　来訪者，金澤氏・坂井氏（一誠堂）・渡辺氏．摘要Ⅰ．所氏．Ⅱ．東大史料編纂所より荒谷文書閲覧のため今月29日来館の旨来信あり．

7月24日水曜（天候）晴　摘要異状ナシ．中井さんゟ荷物1箱とゞく．（石油箱）．

7月25日金曜（天候）晴　来訪者，一誠堂主人．摘要1．評議員会ニツキ山口，所，遠藤，浅井本省行．

7月26日土曜（天候）晴　来訪者，金澤．摘要Ⅰ．寄贈図書3部（大分大，静岡大，東京女子大）．Ⅱ．異状ナシ．

7月28日月曜（天候）晴　来訪者，金澤・西川（早大社研）・豊田・坂井氏．摘要Ⅰ．寄贈図書，群馬大学学芸学部，鹿児島大学農学部，伊勢崎市立図書館，大阪大学産業科学研究所，名古屋大学文学部．Ⅱ．豊田氏，講習会テキスト用史料持参．Ⅲ．西川氏，土屋文書閲覧．

7月29日火曜（天候）曇時々雨　来訪者，金澤・槐・小林（上野図書館）・伊東多三郎氏（史料編纂所員）外2名．摘要Ⅰ．寄贈図書，新潟大学附属図書館，酒田市立図書館，学習院大学［（抹消）］．（槐氏本省ゟ持参の分）春日井市役所，大阪商業大学，奈良女子大学，奈良県教育委員会．Ⅱ．史料編纂所員（伊東氏外2名）荒谷文書閲覧の為来館．Ⅲ．槐氏裏打用刷毛持参．

7月30日水曜（天候）晴　来訪者，金澤氏．摘要寄贈図書，宮城県図書館，会津図書館．異常なし．

8月1日金曜（天候）晴　摘要今日浅井君本省．寄贈図書整理．

土8／2異状ナシ．月8／4浅井・鶴岡・原島君今日ゟ休み．火8／5遠藤民族博物館へ．水8／6．木8／7槐氏本省ゟ引越吉永君手伝．金8／8安沢氏引退（越ヵ）．土8／9安沢・吉永2氏本省引越手伝．月8／11原島・荒井氏休暇明．吉永・谷藤氏今日ゟ休暇．所氏ゟ荷物クル．かつのうめ味フ．槐氏俸給．火8／12本省ゟ山口事ム務（ママ）来館．午后ゟ鉄道博物館員打合．水8／13金澤静枝氏，森書店ゟ370．―受納（6月分立替）．

【付記】本稿は，JSPS科研費20K20503・挑戦的研究（開拓）（研究代表者　渡辺浩一），中央大学政策文化総合研究所「地域社会の持続と歴史的資源の保存・活用」チーム（研究代表者　宮間純一）による研究成果の一部である．

「史料館文書」の利用にあたっては，人間文化研究機構国文学研究資料館の閲覧担当のみなさまに大変お世話になった．記して感謝申し上げる．

注

1）宮間純一（2022）「文部省史料館黎明期の古文書整理業務―「日誌」の紹介―」『中央大学政策文化総合研究所年報』25.

2）『官報』1951年5月30日.

3）国文学研究資料館史料館編（1991）『史料館の歩み四十年』国文学研究資料館史料館.

4）史料館の歴史に言及した文献は，以下が挙げられる．前掲『史料館の歩み四十年』，全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編（1996）『日本の文書館運動―全史料協の20年―』岩田書院，高橋実（1996）『文書館運動の周辺』岩田書院，安藤正人・青山英幸編（1996）『記録史料の管理と文書館』北海道大学図書館刊行会，松尾正人ほか編（2000）『今日の古文書学　第12巻　史料保存と文書館』雄山閣，国文学研究資料館史料館編（2001）『史料館の歩み五十年』国文学研究資料館史料館，中田易直（2001）「中田易直先生談「戦後の三井文庫と文部省史料館について」」『三井文庫論叢』35，大友一雄・筒井弥生（2013）「文部省史料館における公文書館的機能拡充構想関係文書」『国文学研究資料館紀要　アーカイブズ研究篇』9，高埜利彦編著（2018）

『近世史研究とアーカイブズ学』青史出版，宮間純一（2022）「第 3 章　歴史研究とアーカイブズ―史料保存運動から地域持続まで―」（下重直樹・湯上良編『アーキビストとしてはたらく―記録が人と社会をつなぐ―』山川出版社）など．

5）請求番号 2013T-A1-205.

6）「史料館文書」のことを「旧史料館レコーズ」「史料館レコーズ」と称する文献もある．また，国文学研究資料館では館内の通称としてそう呼ぶこともある．だが，筆者が閲覧した 2022 年度現在，同館の閲覧室に備えられている目録では「史料館文書」とフォンド名が示されている．本稿では，これにしたがって「史料館文書」と表記した．

7）2 冊目の請求番号は，2013T-A1-206．記載は，1952 年 8 月 1 日から 1953 年 3 月 15 日まで．8 月 1 日から 13 日までの期間は 1 冊目と重複している．

8）前掲『史料館の歩み四十年』，7 頁．

9）史料館編（1952）『史料館所蔵史料目録　第一集』史料館．

10）安澤秀一（1985）『史料館・文書館学への道―話録・文書をどう残すか―』吉川弘文館参照．

11）その後，1987 年の公文書館法成立などをきっかけとして，「史料管理学研修会」を開始し，2002 年には「アーカイブズ・カレッジ」に改められた．アーカイブズ・カレッジについては，渡辺浩一（2006）「アーカイブズ・カレッジの実践」『アーカイブズ学研究』5，渡辺浩一（2021）「国文学研究資料館のアーカイブズ・カレッジと大学院教育協力」『アーカイブズ』84 ほか参照．

12）館員に関する情報は，前掲『史料館の歩み四十年』掲載の「Ⅴ参考一覧表」を参照した．職名は，特に断らない限りすべて退任時のもの．

13）鶴岡美枝子，教授．

14）大石怜子（旧姓谷藤），文部事務官研究職．

15）安澤秀一，文部事務官研究職．なお，安澤は 1961 年 3 月に一度退職したが，1978 年 4 月に教授として着任している．

16）吉永昭，臨時筆生．

17）大石慎三郎，臨時筆生．

18）槐礼一郎，文部事務官．

19）所三男，調査員．

20）山口栄蔵，文部事務官研究職．

21）一誠堂書店．神田神保町の古書店．

22）中井信彦，調査員．

23）原島陽一，教授．

24）松沢秀，臨時筆生．

25）渋沢青淵記念財団竜門社．

26）武蔵国多摩郡連光寺村富沢家文書の調査．

27）信濃国松代真田家文書．

28）武蔵国播羅郡永井太田村掛川家文書．

29）信濃国安曇郡大町村柳沢家文書．

30）遠藤武，文部事務官研究職．

31）浅井潤子，教授．

32）地方史研究協議会．

33）評議員．当時慶應義塾大学教授．

34）評議員．当時東北大学教授．

35） 出雲国松江松平家文書.
36） 中田易直，元文部事務官．当時東京教育大学教授.
37） 前掲『史料館所蔵史料目録　第 1 集』の完成.
38） 1961 年から評議員．当時東北大学教授兼東京商科大学教授.
39） 兒玉知子（旧姓荒井），臨時筆生.
40） 近世史料取扱講習会.
41） 岡野澄，大学学術局審議官兼文部省史料館長.
42） 宝月圭吾，1961 年から評議員．当時東京大学助教授.
43） 石井良助，評議員．当時東京大学教授.
44） 和歌森太郎，1961 年から評議員．当時東京教育大学教授.
45） 古島敏雄，評議員．当時東京大学助教授.
46） 1967 年から評議員．当時学習院大学教授.